

チームで心をひとつに♥

—認め合い、高め合い、深め合える子の育成を目指して—

安城市立二本木小学校

1 主題設定の理由

これまで本校では「聴き合い」を核として、児童同士の学び合いの場の保証をし、考えを伝え合う中で学びを深化させ、「みんながわかる、みんなでできる、みんなとつくる」授業を目指して研究を進めてきた。しかし、聴き合いだけでは、本校の児童の学びの状況には、大きな個人差があることがわかってきた。そこで、個への支援を重視し、研究を進めてきたが、学級により大きな差が生じ、1年間で積み上げてきた力が次年度に繋がっていない現状がある。そのため今年度は、どの学級においても差が生じることがなく、進級しても継続して行っていける学習システムの構築に力を入れて研究を進めていきたいと考えた。児童同士の関わりを大切に、互いを認め合い、安心して過ごすことができる学級を作り、仲間と共に共創していくような教育活動を展開し、学びの場を保証することで自立した学習者を育てていきたいと考えた。

2 研究の構想

研究を進めるにあたり、以下の研究の仮説と手だてを講じた。

〈仮説〉

児童が互いを認め合い、安心して過ごすことができる学級や学習システムを作り、学びの場を保証することで、互いに高め合い、深め合う力を伸ばして育んでいくことができるだろう

〈手だて〉

- ① 児童が互いを認め合い、安心して過ごすことができる学級を作るための学級アクティビティの実施
- ② 児童が高め合い、深め合える学習環境の確立と全員の学びを保証するためのチーム学習
- ③ 児童の自立した学びを育むための選択型の学習

3 研究の実践

- (1) 4年生 社会「愛して、知って、けんきゅうしようわたしたちの県」の授業実践

様々な資料から、愛知県の地理的特徴を捉え、その根拠をもとに、自信をもって自分の考えを表現することができる児童を目指して実践を行った。本単元では、愛知県の市町村の人口分布、交通網、主な産業を取り上げ、資料や地図帳を活用して、白地図に調べた情報やチームで話し合ったことを書き込んでいき、「マイ地図」を作成するという活動に取り組んだ。チームで活動することによって、様々な情報を比較したり、関連させたりして考えることができた。またなかなか学習に参加することが難しい児童も意欲的に取り組むこ

とができ、活動を重ねる中で、得た知識や情報を自分の考えを表現するための根拠として次の活動につなげていった。その際、それぞれの時間で児童が作ったマイ地図をタブレットで読み込み、写真を重ねるアプリを利用した。マイ地図を重ねて比較、関連づけて考えることで、愛知県の地理的特徴を捉えることができた。本実践を通して、チームでの対話により考えを深めることの大切さとICTを活用することによって、多くの児童が自分の考えを周囲に表現しやすくなることがわかった。



マイ地図をもとにチームで話し合う様子

(2) 3年生 算数科「3－4オリンピック～持ち上げられるげんかいを知ろう～」の授業実践

友達と一緒に具体物を操作したり、わからないことを相談したりしながら課題に取り組むことで、算数が楽しいと感じ、自分の考えを伝えたいと思える児童を目指して実践を行った。本単元では、チームでさまざまなおもりや（ソフトボール、サッカーボール、バスケットボール、メディシンボール、鉄球）身の回りのものの重さを量る活動を行った。チームで重さの量り方や目盛りの読み方について、児童の疑問や考えをそれぞれ話し合いながら活動を行い、試行錯誤を繰り返すことで正しい重さの量り方を導き出し、その方法を定着することができた。本実践を通して、チームでの操作活動や話し合いを授業の中のどの場面で行うかによって、児童の興味や関心を広げたり、考えを深めたりすることにつながることがわかった。



操作活動を行いチームで話し合う様子

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

3つの手だてをもとに、認め合い、高め合い、深め合うための支援を行ったことで、児童は自ら学びに向き合い、学習活動に意欲的に取り組めるようになってきた。また、教師同士も研究授業を行い、授業後には協議会を行うことで、よりよいチームでの学習の在り方や教師支援について学びを深めることができた。

(2) 今後の課題

外国にルーツをもつ児童や個別の支援を要する児童が多数在籍する中で、全ての児童が学びを深めていくためには、日本語適応教室との連携など教職員がチームになって支援していく必要があると感じた。今年度の反省を生かしながら、各学級での学びをより深めていける単元構想の在り方やチーム二本木での教師支援について研究していきたい。